

第2学年3組 社会科授業案

2の3教室 授業者 高原 剛

1 単元名 ぼくらのハザードマップ ～自然災害と防災の取り組み～

2 単元目標

- ・自分たちの住む地域に起こった大地震に対して関心をもち、地域の防災について考えようとする。
- ・さまざまな資料をもとに、自分たちが住む町で起こりうる災害を予測し、対策を話し合うことで、防災についての考えを深めることができる。
- ・自然災害の被害に関して、さまざまな地図や現地調査などを通して、地域の特徴を読み取ることができる。

3 単元の構想

(1) 生徒の実態と単元について

前単元「世界から見た日本の気候」では、雨温図や地形を見ながら、「日本にいろいろな気候があるのは、季節風や山脈が関係しているため」「雨が深いのは、周りは海に囲まれているからだ」と気づきを発表することができた。授業日記には、「気候が地形に関係していることは、新しい発見でおもしろい」「いろんな雨温図をみてみたい」と資料を使って読み取ることへの意欲が見られた。一方で、自分の意見を伝えることはできるが、友達の意見に関わって、意見を言う生徒は少なく、関わり合いの希薄さを感じるがあった。

現在、生徒たちがもっとも関心を寄せている自然災害は、地震である。その理由としては、東日本大震災の報道に触れたり、東海地方で大きな地震があるといわれたりするためである。実際、生徒たちが住む福地地区でも、1945年三河地震があり、家屋の倒壊などの被害が大きく、死者数も市内で一番多かった。地域の人々の生活と関連付け、被害について調べたり、予想を立てたりする中で、地震を学習する必要性を感じることができるだろう。自然災害として地震を地域教材として取り上げることが、生徒たちが、他者と意欲的に関わり、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることを考えるために、有効であると考えられる。

本単元では、はじめに、過去の大地震の被害をグループで調べさせることで、地形や土地利用の違いで、さまざまな被害が起こっていることに気づかせたい。また、三河地震を取り上げ、川の位置や地理的特徴に注目させることで、福地地区の地盤の弱さに気づかせたい。そして、様々な震災の事例の資料や地域に住む三河地震体験者の話をもとに、自分たちの町の防災について考え、災害被害の予測をさせる。資料を根拠に自分の考えを伝え合ったり、グループでハザードマップを作成したりすることで関わりながら、防災についての考えを深めさせたい。

(2) 抽出生Aについて

抽出生Aは、社会科の授業に落ち着いて取り組むことができ、自分の考えをもって積極的に発言ができる。前単元「世界から見た日本の気候」では、「気候は、季節風が関係していると思う」と発表するなど、自分の考えを伝えることができる。その一方、自分の意見を伝えたことで満足してしまい、その後の話し合いに参加しようとはしなかった。

本単元を通して、抽出生Aには自分の意見を伝えるだけでなく、友だちの意見を聞く場面を取り入れ、新しい見方を知ること、さらに自分の考えを深めていこうとする姿を期待する。

(3) 単元構想図 (11 時間完了)

入り口の姿 いくつか自分たちのところにも大きな地震がくると言われているけど、いまいち何をしたいかわからないな。今起きたら大丈夫かな。

	生徒の学習活動と予想される意識・反応	教師の支援 ※評価 (手だて)
つかむ	<p style="text-align: center;">地震のとき、何が起こるのか考えよう。(1)</p> <p>○映像を見て、感じたことを伝え合おう。⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木造家屋が多いと、火の広がり早いのは驚いた。 ・液状化すると、家が傾いてしまうなんて知らなかった。 ・予想される東海地震では、これ以上の被害が出るということなので、助かるかなと不安に思った。 ・過去の震災はどれくらいの被害があったのかな。 	<p>⑦地震発生時の様子を具体的に知るために、阪神・東日本大震災のVTRや三河地震の写真を用いる。</p> <p>※災害の恐ろしさを感じ、切実感をもつことができたか。 (発言の様子、授業日記)</p>
かかわる	<p style="text-align: center;">過去の大地震の特徴を知ろう。(4)</p> <p>○2つの地震(阪神、東日本)の特徴を調べよう。④</p> <p>【阪神大震災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古い木造住宅の密集した地域で、火災による被害が大きい。 ・亡くなった方のほとんどが家屋の倒壊がほとんど。 <p>【東日本大震災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波で流されただけでなく、川を遡上していったことも被害を大きくした原因。 ・液状化により、建物が崩壊している。 <p>○三河地震について地域の方々の話を聞こう。⑧</p> <p>○三河地震の各地域の被害の違いは何か考えよう。⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福地が西尾市内で一番亡くなった方が多いよ。どうしてだろう。 ・大地震が起きたら、どんな被害が出るのかな。 <p style="text-align: center;">身近な地域を調査しよう(2)</p> <p>○福中周辺を調査しよう。④⑤⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塀があって、くずれてしまう危険があるよ。この避難経路は避けたほうがよい。 ・古い木造建築が多いよね。家屋の倒壊が心配だ。 ・アンケートを見てみると、道がせまくて、緊急車両が来てくれるか不安がっていたよ。 ・話を聞いた地域の人は、過去の地震から地盤の弱さを心配していたよ。僕も不安になってきた。 ・ぼくたちで福中版のハザードマップをつくらうよ。 	<p>④過去の地震の被害の大きさを理解するために、グループで調べ学習をする。</p> <p>⑦地震を身近に感じられるように地域の地震体験者の方からの聞き取り調査を行う。</p> <p>⑧福地地区の地盤が弱い地域ということに気づかせるため、西尾市内の被害の資料を提示する。</p> <p>⑨倒壊する場所や火災が広がりそうな場所を見つけさせるため、学校周辺の現地調査や聞き取り調査をさせる。</p> <p>④地域の方の防災意識を知るために、アンケート調査を行う。</p> <p>⑤市のハザードマップを提示することで、身近な地域の調査に活用させる。</p> <p>⑥調査結果を共有するために、話し合いの場の設定をする。</p> <p>※現地調査や調べ学習などを通して、自然災害の被害に関する地域の特徴を読み取ることができたか。 (調べ学習、話し合いの様子)</p>
深める	<p style="text-align: center;">福中版ハザードマップをつくらう(4)</p> <p>○福中版ハザードマップをつくらう。(本時)④⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒壊が心配されるから、古い木造建築が多いところの集落がわかるといい。 ・狭い道路に塀があるところは、避難経路になっているといけない。そこがわかるといい。 <p>○グループごとにハザードマップをつくらう。④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べてみると、古い家屋が多い地域なんだな。 ・塀も多いから、壊れると危険だとよくわかった。 <p>○市の防災課の方に見てもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指摘していただいたことで自分たちのハザードマップができた。地域の危険を家族にも伝えていきたいな。 	<p>④身近な問題として考えられるようにするために、できるだけ同じ町内ごとの小グループをつくる。</p> <p>⑤ハザードマップづくりの視点をもたせるために、市役所の防災課の方をゲストティーチャーとして招く。</p> <p>※地域のハザードマップづくりを通して、正しい防災意識をもつことができたか。 (ハザードマップ、授業日記)</p>

出口の姿 ハザードマップをつくってみて、自分たちの身近には危険が潜んでいることがわかった。自分たちだけが防災意識をもつだけでなく、地域にも広げて、もしもの時は自分たちが中心となって動いていきたい。

4 本時の学習（9／11）

(1) 目標

- ・ 地域の特徴を生かしたハザードマップづくりについて話し合うことで、地域防災について多面的に考えることができる。

(2) 本時の流れ

入口の姿 学校の周りは危険なところがたくさんあるけど、ハザードマップに全部載せてしまうと見にくいな。福地ならではのハザードマップにはどうすればいいかな。		
段階	生徒の学習活動と予想される意識・反応	教師の支援 ※評価
つかむ5	1 前時のふり返しをする。 ・ 福中の周りには、木造の家があるね。 ・ 道もせまいところがあるから、ここは実際に通ると危ないな。	・ 生徒たちが現地調査で撮ってきた写真を提示し、本時の課題をつかませる。 ・ 前時までの授業をふり返りができるように、板書の流れを掲示する。
	福中版ハザードマップの「イチオシ」を話し合おう。	
かかわる35	2 福中版ハザードマップに載せる情報を話し合おう。 【古い木造家屋の分布】 ・ 福地地区は、古い木造建築が密集しているのが特徴。そういうところがわかるといい。 ・ 地域の人でも火事の広がりを心配していたし、僕の家も周りは木造の家ばかりで不安。 【交通】 ・ 狭い道路に塀がある地域は、通行止めになる可能性だってあるよ。そこも確認したほうがよい。 ・ 福地地区は道路の幅が狭い場所が多い。緊急車両が入れないから、そういうところがわかるといい。 【過去の被害】 ・ 液状化現象が起きて、地盤が弱いところは建物が崩壊することになったら危険だな。密集しているところもわかるとよい。 ・ 三河地震を知っている方は、建物の崩壊が多かったことを言ってみえた。過去のことは載せておくべきだよ。	・ 全体の意見の集約の場として、大きな地図を用いるなど板書で工夫をする。 ・ 生徒たちが考えを整理するために、共通事項を教師が押さえていく。 ・ 自分たちの町内でも同じような危険な場所がないのかを考えさせるために、小グループを町内ごとに編成する。 ・ 関わり合いをもたせるために、福中版ハザードマップのイチオシを考えさせる。 ・ 新しい視点をもたせるために、意図的指名をしたり、ゲストティーチャーの指摘や助言をしてもらうことで、考えを深めさせる。（抽出生Aへの手だて） ・ ハザードマップづくりの視点をもたせるために、市役所の防災課の方に話をさせていただく。 ※資料を根拠に、福地地区の被害について意見を伝え合うことができたか。（話し合いの様子）
深める10	3 振り返りをする。 ・ 自分たちの調べはまだまだ足りていないと思う。自分たちだけではなく、たくさんの人の意見を取り入れたものにしていきたい。	※福地地区の防災について考えを深めることができたか。（授業日記）
出口の姿 自分たちが住んでいる町だけど、まだまだ知らないこともあった。もっと調べて、自分の家の近くのハザードマップをつくっていききたいな。		